

2022年11月22日

東北大学総長・プロボスト室御中

日就寮委員会

「東北大学ビジョン 2030」および「コネクテッドユニバーシティ戦略」に対する公開質問状

2018年に発表された「東北大学ビジョン 2030:61. 革新的な建物等整備手法による開かれたキャンパス整備」において「従来の手法にとらわれず、財政基盤強化に資する収益性の高い新たな施設整備手法を戦略的に導入し、複数の既存宿舎の集約、民間マンションやオフィスビル等を収容した複合施設の整備、川内地区のコンベンションセンター化、星陵キャンパスおよび青葉山新キャンパスにおけるリサーチコンプレックス整備などを新たに推進します。」という記載があります。

日就寮委員会は、学寮やそれに準ずる学生寄宿舍は学生の福利厚生に関する施設であり、特に学生のセーフティネットとしての役割を持つ学寮を対象とする施策は、当事者との対話に基づいてより慎重に作成・実行されるべきであると考えています。

つきましては上記の内容について、下記の質問をいたしますので2022年12月23日までに文書でご回答ください。詳細かつ誠意ある回答をお願いいたします。

#### 記

- ①「東北大学ビジョン 2030」における「61. 革新的な建物等整備手法による開かれたキャンパス整備」内で述べられている「既存宿舎」とは具体的にどの宿舎を指すのでしょうか。
- ②「東北大学ビジョン 2030」における「61. 革新的な建物等整備手法による開かれたキャンパス整備」内で述べられている「集約」とは具体的にどのような施策を指すのでしょうか。
- ③2020年に公表された「コネクテッドユニバーシティ戦略」における、「ビジョン4.経営革新」内の「重点戦略18」に含まれる「61. 革新的な建物等整備手法による開かれたキャンパス整備」においても、「既存宿舎」の「集約」を推進するとの方針に変わりはないでしょうか。
- ④この質問状に回答がない場合、学寮はこの「既存宿舎」の定義には当てはまらず、「集約」の対象でもないとの認識でよいでしょうか。